

平成 30 年度 第 1 回

太田市美術館・図書館運営委員会 摘録

◆日 時 平成 30 年 6 月 30 日（土）午後 2 時 00 分～

◆会 場 太田市美術館・図書館 3 階展示室

◆出席者

【委 員】 尾崎委員長、川上委員、杉浦委員、住友委員、鳥塚委員、森委員

【事務局】 城代館長、空井館長補佐（管理係長）、富岡館長補佐（学芸係長）、
鹿山主任、星野主任、小金沢主任（学芸員）、町田主任（司書）

◆欠席者 花井委員

◆議 題 ①運営委員会の基本的な考え方について
②平成 29 年度概要及び事業報告について
③平成 30 年度事計画について
④その他

◆配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ （資料 1）運営委員会の基本的な考え方について
- ・ （資料 2）事業報告（平成 28 年度・平成 29 年度）
- ・ （資料 3）平成 30 年度事業計画
- ・ 太田市立図書館と美術館・図書館連携事業について
- ・ 『太田市美術館・図書館』の全て

◆会議の内容

1. 開会
2. 任命書交付
3. 館長挨拶
4. 運営委員会

(1) 自己紹介

(2) 運営委員会委員長選出

全員賛成により尾崎委員が委員長に選出された。

(3) 議題

議題①「運営委員会の基本的な考え方について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

運営委員の定員について条例では10名以内と定められているが、今後増員の予定はあるか。

【事務局】

この委員会の中でふさわしい専門の方についてご提案があればお示しいただき、増員も検討したいと考えている。

【委員】

美術品の購入予定はあるか。

【事務局】

昨年度は開館記念展の出展作品を購入した。今後も企画展を開催した中で出展作品の購入を検討していく予定だが、30年度は購入の計画はなく、予算計上も行っていない。

【委員】

美術品を保管する収蔵庫はあるのか。

【事務局】

ある。ただし規模が小さく収蔵数に限りがあることが課題である。

【委員長】

会議終了後の施設見学で見てもらえばわかるが、手狭である。また美術品購入の予算についても厳しい現状がある。

議題②「平成29年度概要及び事業報告について」

事務局が資料に基づき説明を行った。なお、プレオープン期間である平成28年度の事業についても併せて報告した。

【委員】

視聴覚ホールの貸出業務を行っているとのことだが、どのような団体、事業に使われているのか。

【事務局】

内訳としては行政が主催する講演会が多かったが、コンサートなどのイベントでも利用された。

【委員】

市主催事業の場合は無料になると思うが、通常の使用料はいくらか。

【事務局】

条例で1時間1,000円と定めている。

【委員】

無料の催事のみで貸出しているのか。

【事務局】

有料の催事にも貸出は可能である。ただし徴収する料金によって使用料も異なる。

【委員】

来館者数のカウント方法について教えてもらいたい。

【事務局】

館全体の来館者は三方の出入口に設置してあるゲートで自動カウントしている。美術展の来場者のカウントは基本的に美術展の入場口で行っている。

【委員】

有料来場者と無料来場者の違いは。

【事務局】

有料展示であっても無料対象者を設定しているためである。

【委員】

無料対象は高校生以下か。

【事務局】

美術展ごとに料金設定が異なるためおおよそではあるが高校生以下と 65 歳以上については無料対象となる場合が多い。

【委員】

雑誌スポンサー制度は大変に興味深い。どういう団体が登録しているか。またどのように参加を募ったのか。

【事務局】

基本的には地元企業が多いが、スポーツチームなど雑誌の内容に関連する団体も登録してくれている。募集について当初は市として個別に協力をお願いしたところもある。また市の広報紙、太田市及び当館のホームページでも周知した。雑誌スポンサーになると個人以外は配架雑誌に提供者として名前が記載される。地元企業には、社会貢献事業と一環として協力していただいている。

【委員】

貸出件数は月平均 5,000 冊だが、ほかの図書館と差があるか。

【事務局】

既存の市立図書館 4 ヶ所と貸出件数を比較した場合、当館が一番少ない。原因の一つとして他館において貸出件数の多い小説、文学類の蔵書が当館には少ないことがあげられる。

【委員】

それぞれの館が特性を生かし補い合うのがよいと思う。

【委員】

中央図書館の蔵書数は 20 万冊だが、蔵書数にも差があるのか。

【事務局】

蔵書数についても当館が一番少なく、現在約 3 万冊である。

【委員】

図書の収蔵については今後も進められると思うが、何冊を適正蔵書と定めているのか。

【事務局】

5 万冊を目標としている。

【委員】

今年度も引き続き図書購入のための予算は計上されているのか。また平成 28 年度以降、選書委員会は開かれていないのは何故か。

【事務局】

予算計上はされている。選書委員会については図書館の立ち上げにあたって有識者の皆さんに意見をいただくため組織したものであり、現在はその時に定められた「選書方針」に基づき、担当職員で選書を行っている。

【委員】

この委員会では美術の収蔵についても図ることになっているが、通常、美術館への収蔵作品の受け入れというのはウェイトの高いものなので金額や作品の状態など詳細なことを確認すべきものがある。運営委員会での認可ではプロセスが甘い。第三者がきちんと認めたものを太田市に収蔵する意味でも単独の収蔵委員会を立ち上げた方がよいと思う。昨年度までに収蔵された美術品は全て購入か、寄贈か。

【事務局】

1点が購入でほかは寄贈である。

【委員】

本来は寄贈であっても委員会にかける必要がある。委員会の設置することで作品収蔵に政治的な意図が入り込むことを阻むこともできる。そういう役割としても収蔵委員会を持ったほうがよいと思う。

【事務局】

委員会を立ち上げる場合は複数の立場の専門の先生に入っていたほうがよいか。

【委員】

よい。購入数が多い規模の館では、絵の価値をみる委員会と価格をみる委員会を分けて設置しているところもある。ここでは1つの検討委員会で良いと思うが。

【委員】

専門家の意見を聞くための委員会を持っておく方が税金を使つての購入という点からも良いのではないか。

【委員】

公立の美術館同士は通常、無償で相互貸借を行うが、委員会が設置されているということは他館から信頼度を高め、また所蔵作品の価値のお墨付きにもなるのでよいと思う。

【委員長】

今後も意見を生かしていきたい。

【委員】

生涯学習施設としてボランティアの育成状況は。

【事務局】

まだ育成活動を行うに至っていない。あくまで手伝いの範ちゅうである。

【委員】

現状として研修は実施せず、看視のためのレクチャーのみ行っているということか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員】

学ぶ意欲を満たすに至っていないにも関わらずボランティアが定着しているのは驚きである。

【委員】

登録者の年齢層や性別はどのような割合となっているか。

【事務局】

年齢は比較的高めで男性が多い。女性の年齢層は様々である。

【委員】

ボランティア同志のコミュニケーション、横のつながりはあるのか。

【事務局】

昼食休憩で交流をもっているようである。

【委員】

開館当初は運営に手一杯で育成にまで至らないと思うが、ボランティア同士の交流の場があるだけでもそこで学びあいが発生していると思うので、これから少しずつ育成というところなのではないか。ボランティア側からもっとやりたいという意欲がでてきたとき、その気持ちをどう受け止めるかが近い将来課題になってくると思う。解説をしてみたい、自分たちでワークショップをしてみたいという要望があがったとき、いかにサポートするかが館の重要な役割になってくると思う。

【委員】

おはなし会は他の施設でも行っているが、この館のおはなし会の特色はあるのか。

【事務局】

通常は他の施設でも行っているようなおはなし会を実施しているが、年に数回テーマを決めたものを実施している。その時には美術展出展作家の作品を選ぶなどしている。

【委員】

一般には読書イコール物語の傾向があるが、小学校中学年くらいは教科書で自然科学の分野、図鑑類を多く取り上げて活用している。読み取りの基盤づくりとして物語も必要だが、自然科学の分野の本をおはなし会で取り扱っても面白いのではないか。教育現場でもぜひ読ませたいと考えている。選書においてもぜひ検討いただきたい。

【委員】

貸出でも自然科学の関心は高い。

【委員】

自然科学の分野は本の苦手な子ども入りやすい分野である。読書をするきっかけにもなっている。

【事務局】

ぜひ参考にしていきたい。

議題③「平成30年度事業計画について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

施設内に絵具で汚れてもよい場所、また水や火を使用できるスペースはあるのか。

【事務局】

5月にイベントスペースで箔押しのワークショップを行った。イベントスペースに関しては電気機器や水もある程度は使うことができる。

【委員】

体験型のもの、例えば科学的な遊びのワークショップ、また泥だらけになれるワークショップは美術、図書どちらの観点からも大変魅力的である。

【委員】

えきまえ寄席について、高齢者だけでなく若い世代の参加を促したいとあったが、市内の小学校4年生は7月に国語で落語の「ぞろぞろ」を学ぶ。この時期に学校寄席を実施しているところもある。7、8月に子ども向けの落語をやって学校にアピールすれば子どもたちにも足を運んでもらえるのではないか。

【事務局】

えきまえ寄席にも子どもたちが来ることがある。子ども向けでない演目をやる場合もあるのが難点だが、寄席の雰囲気は味わってもらえていると思う。

【委員】

子どもたちは怖い話が好きなので怪談寄席を8月に設定したのは良いと思う。

【委員】

桂扇生師匠はアンデルセン童話をモチーフにした創作落語をやられている。

【委員】

今年度の事業について「飯塚小玗齋展」や「本と美術の展覧会」シリーズは独自性がある。太田ならではの企画をぜひがんばっていただきたい。事業予算は組織規模とは見合っていると思うが、人件費、組織体制についても見た時にはバランスをとる必要があると感じた。組織の規模からするとやりすぎの感がある。業務委託の予算割合が大きいのが、それを補うためのものか。

【事務局】

今年度は美術品の運搬や造作の委託料などが大きくかかっている。

【委員】

作家の契約は業務委託で行っているのか。業務委託料が多いと助成金が認可されにくい傾向がある。一方で小さな組織規模で多く事業をまわすためには委託にならざるを得ない部分もあると思うので、兼ね合いをよく検討してもらいたい。

【事務局】

ボタンの博物館コレクション展とえきまえ寄席は運営も含めての委託事業である。

【委員】

この事業内容であれば組織的には今の3倍の人員があってもよいと思うが、自主事業がよいのか業務委託がよいのか悩ましいところ、ただ助成金をもらうには自主事業であることが条件になる。

【委員】

シリーズ化して「太田の美術」の企画をやっていくことは大変よいと思う。開館記念展と一周年記念展も独自企画か。

【事務局】

そのとおりである。佐久市近代美術館コレクションの展示については市長からの推薦もあった。

【委員】

館のカラーを出すため独自の企画をするということは当然人手も多くかかるのであるから、やはり組織規模と事業のバランスをとっていくとは大事であると思う。看視ボランティアとおはなし会ボランティアはそれぞれ別の団体をお願いしている。運営にかかわっている人たちがうまく館がつなげていきつつ、長期的に考えた場合、運営側が息切れしないようシリーズものと独自の企画とのバランスをとることが大事であると思う。

【事務局】

学芸員の配置について、当館規模の美術館では通常どのくらいの人数が必要なのか。

【委員】

1人の学芸員が企画する展示は1年に1本が一般的である。準備や関連イベント数を考えるとこの館でももう少し人員が必要なように感じる。

【委員】

この館には何人の学芸員が配置されているのか。

【事務局】

現状2名で、小金沢学芸員が中心となって企画を行っている。

【委員】

自治体が人を増やすのは大変だと思う。ボランティアの育成は「太田人」を育てるというミッションにもかなうもの。学芸員がもう少しいればそこにも手がまわる。増員は長い目で見た時に無駄な投資にはならないと思う。

【委員】

人の育成には時間がかかるもの、どのくらい長い目を持てるかという部分もある。運営側が疲弊してしまう前にそろそろ人を育てる方途を考えたほうがよい。そのためにも人を増やした方がよい。また展覧会を作るということは単に専門業者が来て絵を飾れば完成というわけではない。やはりしかるべき人員が必要である。

【委員】

人も予算もなく複合施設という特殊な運営形態であるため苦労も多いかと思う。知恵を働かせ、整理するところは整理し、ボランティアなどの力を借りながら運営にあたってってもらいたい。美術に関するワークショップも行って積極的にボランティアを育成していったらどうか。他館の取り組みなども研究しながら、太田だからできる、太田ならではのものを考えていくとよい。

【委員】

東京には子どもたちが無料で美術鑑賞できる場所も多いが、交通の便などを考えると太田の子どもたちは気軽に美術展に行くことができない。教育現場でも子どもたちに本物をみせてあげたいという気持ちが強くある。ここの存在は太田市の将来を担う子どもの育成に重要であり、学校現場でもアピールに力を入れていきたいと思っている。

【委員】

学校単位で美術展を見学させる企画を実施したことはあるか。

【事務局】

初年度、プレ事業の時には実施した。それ以降も校外学習で見学にくる学校も多い。基本は学校側が主体だが情報提供は積極的に行っている。

【委員】

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展では学校単位で毎回見学に来ることが各地で定着している。美術に触れる機会づくりを家庭や個人に任せるのは厳しい。

【委員】

太田市でも音楽鑑賞会については体制が整っている。美術でも同じような体制づくりが必要であると考えている。義務教育のうちにぜひ本物を見る機会をつくってもらいたい。

【委員】

武蔵野美術大学では試みとして保育園で美術展示を行うプロジェクトや美大生の作品を小中学校の空き教室で展示させてもらったりしている。まちじゅう図書館の美術館版をや

るのもよいのではないか。地方は交通手段の関係で施設に足を運んでもらうこと自体が難しい。ただそれをするには専任で担当する人をつける必要がある。人が足りない現況のまま実施すると本体に負担がかかってしまう。美術館を外に広げるという効果はあるが、体制をつくらないと厳しい。

【委員】

学校が美術展に定期的に来るようになればスタッフの増員につながるのではないか。

【委員】

体制づくりをしている地域、金沢市、世田谷区、川崎市などにヒアリングしてみてもどうか。また博物館での取り組みが進んでいるので先行研究してみてもどうか。とにかく人は必要、今の体制では厳しすぎる。

議題④「その他」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

次回委員会の開催予定は。

【事務局】

平成31年2月中旬を予定している。

【委員】

今後も6月と2月が定例となるのか。

【事務局】

委員の皆さんの了承がいただけるのであれば、そうさせていただきたい。

【委員】

この委員会は評価に関しての業務はないのか。

【事務局】

含まれていない。あくまで諮問機関である。

【委員】

事業報告については数値的な報告が多かった。工夫点や成果をみせて質的な評価ができるようにしたほうがよい。具体的にはアンケート結果を示す、担当から直接報告してもらう、また新聞記事を紹介するなど形式を工夫してもらいたい。

【事務局】

事業報告として本来は年報を出すべきところであるが、6月でまだ制作中のため、完成し次第、皆さまにお渡ししたい。今後は数の報告は年報で、委員会では質的な部分の報告を行っていきたい。

【委員】

基本的にはよくやっているが、いよいよこれからというところ。質的な部分でぜひ担当者からの生の声も聞かせてもらい、意見を出していきたい。

【委員長】

皆さま貴重なご意見ありがとうございました。この委員会も事務局と一丸となって頑張ってきたと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

5. 開会